

ナシ「幸水」「新高」の発芽不良は発育枝の夏季誘引により軽減される

ナシ「幸水」「新高」では、新梢停止後に予備枝由来の発育枝の夏季誘引を行うことで、翌年の側枝として利用する長果枝の発芽不良の発生が軽減されるとともに腋花芽の着生率が向上する。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室 (担当者: 轟田純子)

研究のねらい

2009年春に県内で多発したナシの発芽不良(不発芽や花蕾数の減少)や開花の遅延により、花数が不足し、着果不良が問題となった。その後、2017年春にも一部地域で発生がみられ、2020年春にも多発し、今後も温暖化の進行により頻発することが想定されることから、毎年安定した着花量を確保するため、発芽不良軽減技術が求められる。

そこで、「幸水」「新高」における夏季の新梢誘引が発芽不良の発生と花芽着生に及ぼす影響を明らかにする。

研究の成果

1. 新梢停止後(6月下旬~7月上旬)に予備枝から発生した長果枝を45度で斜め誘引(夏季誘引)すると、発芽不良発生率が低くなる(図1、図2)。
2. 夏季誘引を行うと腋花芽の割合が高くなる(図3、図4、図5)。

成果の活用面・留意点

1. ナシ「幸水」「新高」における着花安定技術として活用できる。なお、「新高」では、腋果芽よりも短果枝で発芽不良の発生が少ないことから(農業の新しい技術 No. 694)、側枝の更新は急がず、側枝使用年数5年程度を目安に短果枝利用を基本とする。
2. 2023年春から2025年春までの低温積算時間(果樹研究所内の気象観測装置の気温データを用い、前年10月1日から当年2月28日までの $-6\sim 7.2^{\circ}\text{C}$ の特別温度を積算)は、それぞれ1192時間、905時間、1410時間であった。

【具体的データ】 No. 1165 (令和8年(2026年)5月) 分類コード 02-10 熊本県農林水産部

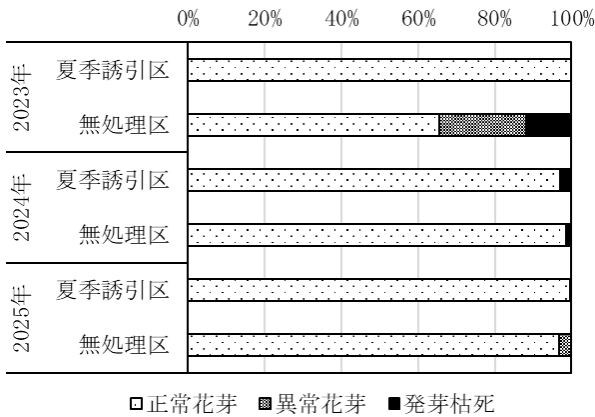


図1 夏季誘引が「幸水」の発芽不良に及ぼす影響

注)調査本数は各区2023年10本(4樹)、2024~2025年15本(3樹)

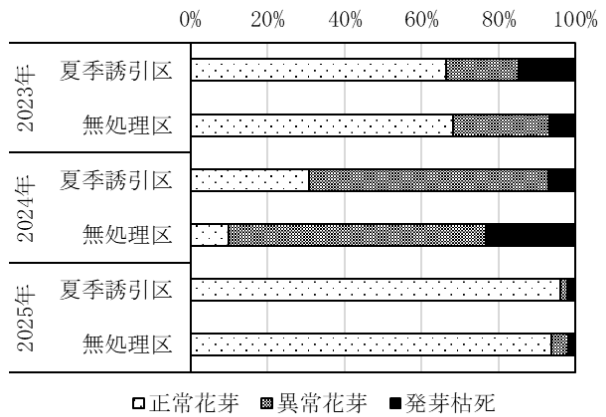


図2 夏季誘引が「新高」の発芽不良に及ぼす影響

注)調査本数は各区2023年10本(4樹)、2024~2025年15本(2樹)

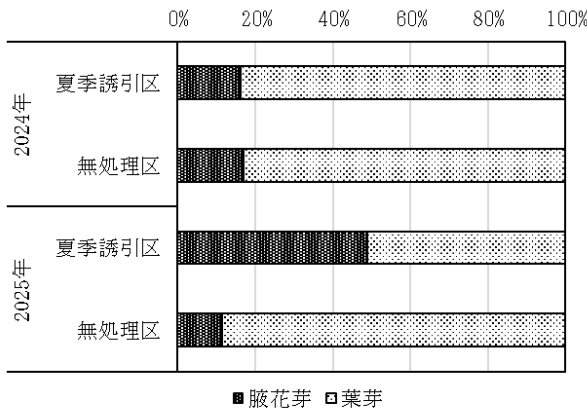


図3 夏季誘引が「幸水」の花芽着生に及ぼす影響

注)調査本数は各区2023年10本(4樹)、2024~2025年15本(3樹)

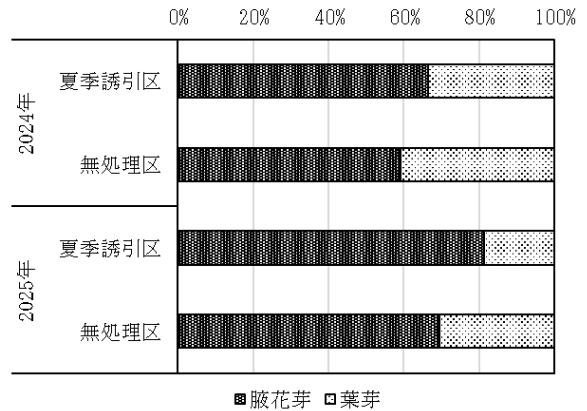


図4 夏季誘引が「新高」の花芽着生に及ぼす影響

注)調査本数は各区2023年10本(4樹)、2024~2025年15本(2樹)



図5 夏季誘引の有無による「幸水」の腋花芽の着生(2025年春)